

# 令和4年度 一般会計の 歳入と歳出の特徴



## 歳出

### 人件費は約1.0%の増

市職員の給与、退職金、議員や委員の報酬などの経費である人件費は、前年度比1.0%増の約1億1,614万円増額となりました。

### 扶助費は約1.5%の増

高齢者・児童・生活困窮者などを援助するための経費である扶助費は、心身障害者福祉費や保育所費の増などにより、前年度比約1.5%増の約3億7,831万円増額となりました。

### 公債費は約3.0%の増

施設建設などのために借り入れた市債を返済する経費である公債費は、前年度末で返済終了となる市債額を、返済開始となる市債額が上回ったことなどの影響で、前年度比約3.0%増の約2億2,840万円増額となりました。

### 普通建設事業費は約17.8%の減

学校、道路、公園などの整備を行うための経費である普通建設事業費は、全体として前年度比約17.8%減の約17億2,202万円の減額となりました。これは、新第2学校給食共同調理場整備事業や東小学校及び東中学校改築事業などの大型事業費が減少したことによるものです。

## 歳入

### 市税は10億385万円の増

歳入の根幹である市税は、前年度予算額267億6,286万円に対し、今年度予算額が277億6,671万円となり、10億385万円の増額となりました。

これは、市民税が約6億8,576万円の増額、固定資産税が2億1,509万円の増額となることなどを見込んでいます。

市税の収納率については滞納整理など積極的に取り組み、令和2年度は95.9%となっており、今後も収納体制の強化に努めさらなる収納率の向上を目指します。

### 市債は39億1,140万円の減

主に建設事業を行うために借り入れる市債は、世代間負担の公平性の確保とともに大型事業実施の当面の財源として有効な手段です。ただし、市債の返済金である公債費の増加は、財政硬直化の要因となるため、慎重な判断が必要となります。

今年度は、新第2学校給食共同調理場整備事業の終了などにより、前年度に比べ39億1,140万円の減額となりました。

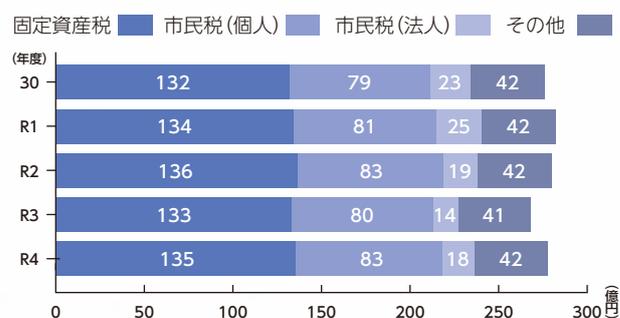
なお、今年度末の市債残高は、前年度から約36億9,922万円減額の約901億1,746万円を見込んでいます。

## ネーミングライツによる広告収入について

令和4年度予算額 16,880千円

施設名	愛称
白鳥アリーナ	白鳥王子アイスアリーナ
緑ヶ丘野球場	とましんスタジアム
市民文化公園	出光カルチャーパーク
沼ノ端スケートセンター	ダイナックス沼ノ端アイスアリーナ
日新温水プール	アプロス日新温水プール
沼ノ端スポーツセンター	アプロス沼ノ端スポーツセンター
リサイクルプラザ苫小牧	JFEリサイクルプラザ苫小牧
三光横断歩道橋	安心のかけ橋 とませい歩道橋

## 市税収入の推移データ(令和3・4年度は予算額)



令和4年度の内訳は、固定資産税が約49%、市民税(個人)が約30%、市民税(法人)が約7%となっています。

今後も予算の効率的・効果的な執行に努め、財政の健全性を確保しながら、さまざまな課題に対応できる持続可能な財政運営を目指していきます。